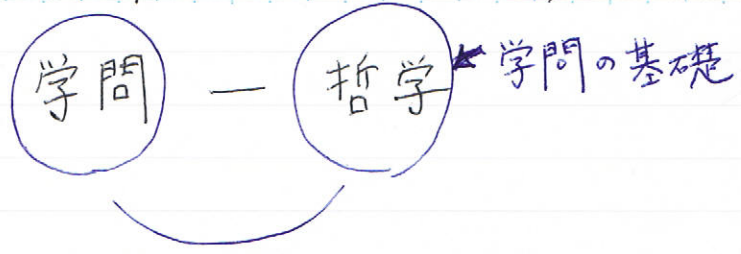
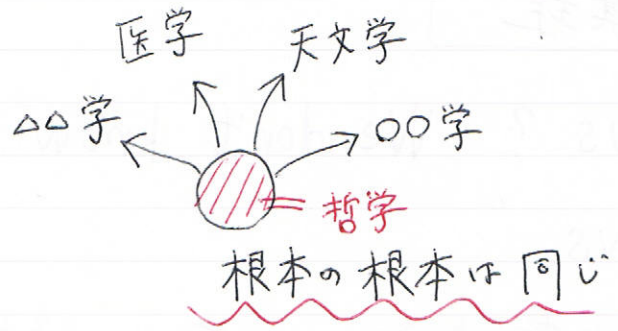


え. 学問と哲学 (つづき)



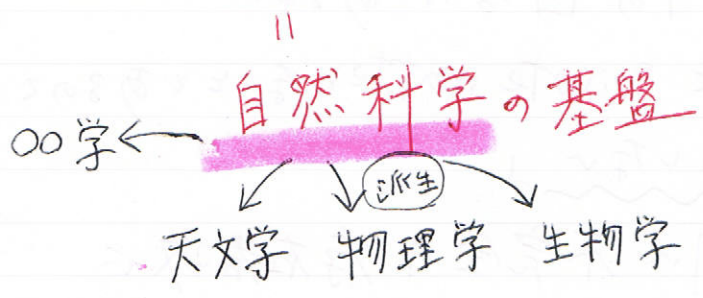
広義では同じ

学問の 基礎の基礎 をやるとつながる.



哲学の根本の根本

古代ギリシア・ミレトス学派
「自然哲学」



世界の 起源 は何か?
(事物) → アルケ-
arche

学問 : 真理探求

真理 とは ?

神 ... 完全無欠

人間 ... 不完全

absolute truth
絶対的真理

とこの存在者

"Who knows? We don't know."

God knows."

→ 宗教的意味合いでは無い。絶対的真理
absolute truth

絶対的真理 とは何か?

生井先生

自分なりの回答はあるが

極めて private matter なることであるので

「明言しな」

人間の不完全な存在者故に

完全な存在者について明言はできない。

単なる想像に過ぎない。

学問は不完全な存在者が行っているもの。
それ故、絶対的真理はわからない。
明言できないのは極めて private matter であるから。

公に明言すること = 言葉の暴力

【但し、Scientific に学術的根拠づけ、
理論づけがなされたら述べられる。】

別次元の話。

↳ ノーベル賞受賞者など 基礎 (= 本質) を
しっかりと学んで 通るべき所 を通った者

Narrow Gate ...

※ 宗教家の語る「真理」は、学問的を
「真理」とは全く異なる。
(通るべき所を通過していない場合が多い)

3. 学問としての宗教学・神学

1) 宗教と宗教“学”

宗教

- 何かを信じている有様、信仰
- 理路一貫性、合理性 (rationality) がなく、欲望 (自己の幸福) のために何かを信じている。
- 「〇〇を信じれば救われる」
→ 自分が救われたい
→ さびしい
→ 友だちがほしい。
- 詐偽 手帳の教団も
→ 勧誘方法も相手の弱み
→ フォームで「営業」
- 文化の心とつ

★ 感情による共感
(理論ではない・非合理的)

★ 究極的な価値判断
||
真理要求

宗教“学”

- 特定の信仰の立場ではなく極めて中立的。
- 比較文化的観点から特質・類似点・相違点を学問的に研究。
- 学術的に 宗教 の有様を研究
 本質
 ★ 宗教そのものが本質とは限らない。
 学問的に捉えるならば「本質らしきもの」
- 学問の実践は常に「疑う」ことが重要。
 公平無私な精神で常に懐疑心をもって探求

広辞苑 (第6版)

[宗教] (religion)

神または何らかの超越的絶対者、あるいは卑俗なものから分離され禁忌された神聖なものに関する信仰・行事。

また、それらの連関的体系。帰依者は精神的共同社会(教団)を営む。

アニミズム・自然崇拜・トーテミズムなどの原始宗教、特定の民族が信仰する民族宗教、世界的宗教すなわち仏教・キリスト教・イスラム教など多種多様。

多くの教祖・経典・教義・典礼などを何らかの形で持つ。

(religious studies)

[宗教学] (the science of) religion)

諸種の宗教現象を比較・研究し、
宗教の本質を客観的・普遍的に
把握しようとする学問。

特殊宗教についての信仰を前提とする
神学とは異なる。

19世紀末から特に開拓。

[神学] (theology)

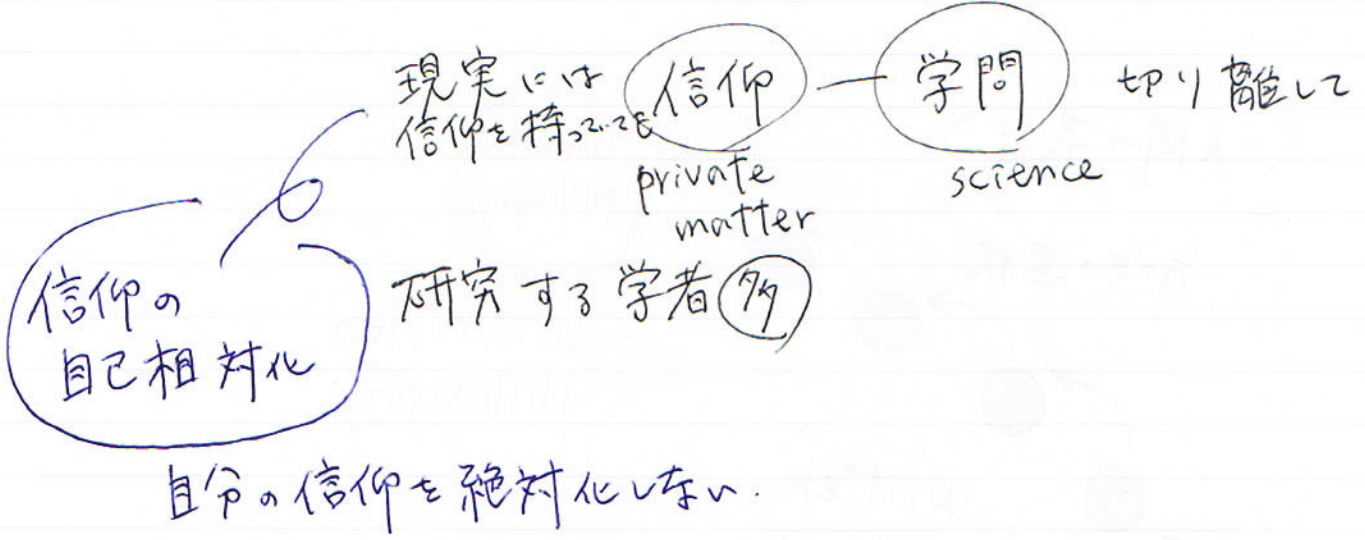
宗教、特にキリスト教で啓示に基づき
教義や歴史や信仰生活の倫理などを
組織的に研究する学問。

2) 宗教学と神学

↳ 通常、キリスト教信者が
キリスト教そのものを探求。
「神学部」キリスト教信者。

※ 実際の「宗教学」と「神学」の概念が
ごちゃごちゃに存在していることが多い。

※ 「宗教学」はより客観的・中立的立場
↳ 究極的価値判断を行わず。
研究するには専門分野の信仰を持つ
いない方が適す。



4. unwritten philosophy & written philosophy

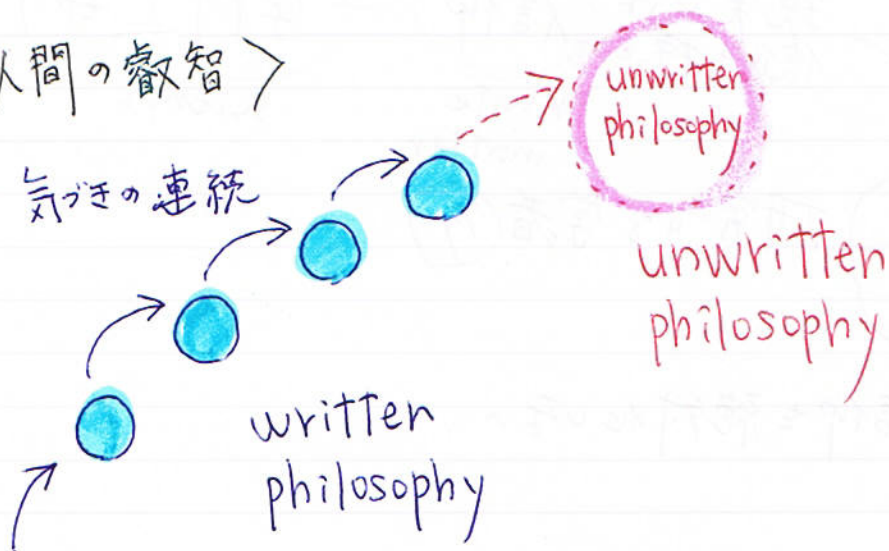
written philosophy

- 成文
- 現代人が学んでいる哲学は言語で認知。
- すでに到達している、既存の理論。
- 人間の叡智は偉大を哲学者・思想家たちの「気づき」の連続により written philosophy に。
- 偉大な哲学者・思想家が成し遂げたもの。

unwritten philosophy

- 不文
- 哲学の理論は、
古代 → 中世 → 近代 → 現代と
発展し、一般的には山場を超え
熟成期向とされているが、
実際のまだ「初歩的」の段階で、
まだ人間が到達していない
構築可能な理論がある。
(医学のようにまだ発展可能)

< 人間の叡智 >



★ 人間個人の知の歩み

昔の哲学者の言葉を参考にしてゐるが、それ以外の

↳ すでに構築されてゐる理論: written philosophy

理論も存在する。我々もまだ知り得ないことがある

↳ unwritten philosophy

① 個人として本(文字)で認識できる知

||

written philosophy

② (既存の)本では認識できない知

||

unwritten philosophy

< 知の歩み ... 3つの stage >

① Cultivation : 教化する =

磨く

- 生まれて、物心がつき、読み書きを修練を重ねる。
- 教養化、自分自身を高める。
- 期間が人によって異なる。
→ 学校に通う間だけの人もいる。

② Civilization : 文明化・洗練

- Cultivation という経験をせずに Civilization はない。

You must be civilized, civilized lady.

文明・文化を満喫できる淑女 = 教養人

自分を構築

- 文明社会に住んでいるからといって、個々の人間が文明人とは限らない。
野蛮人 = 思索のない人。
- 自分自身を文明人として変貌させるには、自分を磨き抜く = 必要。

③ naturalization

: 帰化

- nature (n)
- natural (a)
- naturalize (v)
- naturalization (n)

自然に帰する。

本来自分の求めている場所に行く。

自分の望む場所。

naturalizationの實現
 ||
 本当の意味での幸福

6

人によって異なる private matter

ex). 農業をやった土に戻る。

- ・ ドナルド・キン先生が日本国籍を取得
 - 法的 → 帰化
 - 哲学的 → 自己實現

naturalize

- vt) 1. ① 帰化させる。
(外国人に) 市民権を与える。
- ② (言語・風習などを) 外国から取り入れて
自国のものとする。
(動植物を) 移植する。新風土に存らす。
2. (奇跡・伝統などを) 自然の理に合うように説明する。
…の人為〔約束ごと〕的要素を除いて
自然存存にする。
神秘的でなくする。

- vi) 1. 帰化する。
新風土に存する。
2. 博物の研究をする。